

## 特 許 協 力 条 約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT 3.6条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 FP2597PCT	今後の手続きについては、様式PCT/ IPEA/ 416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/12594	国際出願日 (日.月.年) 01. 10. 2003	優先日 (日.月.年) 01. 10. 2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl <sup>7</sup> C08L 67/02、C08G 18/42、C09J175/06		
出願人 (氏名又は名称) 宇部興産株式会社		

1. この報告書は、PCT 35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第57条（PCT 3.6条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a ☐ 附属書類は全部で \_\_\_\_\_ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ （電子媒体の種類、数を示す）。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT 35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 27. 02. 2004	国際予備審査報告を作成した日 09. 06. 2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員）  森川 聡  電話番号 03-3581-1101 内線	4 J 9268

様式PCT/ IPEA/ 409（表紙）（2004年1月）

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)という国際調査

☐ PCT規則12.4という国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3という国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-14	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲	1、3、4、7-14	有 無
	請求の範囲	2、5、6	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-14	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: JP 2000-344852 A (積水化学工業株式会社)  
2000.12.12

請求の範囲1、3、4、7及び8

請求の範囲1、3、4、7及び8に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により進歩性を有しない。

文献1に記載されている結晶性ポリエステルポリオールとポリカーボネートポリオールの混合割合を比較検討し、結晶性ポリエステルポリオールの割合を10~97重量%の範囲内に規定することは、当業者が容易に実施し得ることである。

請求の範囲9-14

請求の範囲9-14に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により進歩性を有しない。

密閉型中にセンサー、回路板、素子、スイッチ、配線、コネクタ、表示装置又は電池を配置し、反応性ホットメルト組成物を射出し、冷却した後、大気中で湿気硬化させて、挿入物が一体化されている成形品を得ることは、本願優先日前に当業者が普通に実施していたことであるから、引用文献1に記載されている湿気硬化型ホットメルト組成物から上記挿入物が一体化されている成形品を得ることは、当業者が容易に想到し得ることである。

請求の範囲2

請求の範囲2に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1に対して進歩性を有する。

文献1には、ポリオール混合物が、脂肪族ジカルボン酸と脂肪族ジオールを主成分として製造され、熔融状態より10℃/分の冷却速度で冷却、固化させた際のX線回折法(ルーランド法)による結晶化度測定において結晶化度が30%以上の結晶性ポリエステルポリオールを含むものであることが記載されておらず、一方、本願発明はそれにより、金属、特にアルミニウムとの接着性に優れた反応性ホットメルト前駆体であるという有利な効果を発揮する。

請求の範囲5及び6

請求の範囲5及び6に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1に対して進歩性を有する。

文献1には、ポリオール混合物が、エチレングリコール及びネオペンチルグリコールを脂肪族ジオールとして製造されるポリエステルポリオール、1,6-ヘキサジオールを含むポリカーボネートポリオールを含むものであることが記載されておらず、一方、本願発明はそれにより、金属、特にアルミニウムとの接着性に優れ

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

た反応性ホットメル前駆体であるという有利な効果を発揮する。